



兵庫県立但馬やまびこの郷

Web版／令和3年2月 虹のかけ橋

<http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

ウィズコロナ時代をどう生きていくか

今年度は、各学校とも新型コロナ対策の中での教育活動となり、様々な工夫や配慮をしながら、日々の実践をされていることでしょう。

学校の臨時休業中に、昨年度当所を利用していた子どもの保護者に様子をうかがうと「やまびこの郷で習った料理を作ってくれます」「家の掃除を進んでしてくれます」と、制限された状況の中でも自分ができることをしているとの報告に「生きる力」を感じました。

私たちおとなは、先の読めない不透明な時代を生きる子どもたちに、どのような力をつける必要があるのか改めて考えて、子どもたちと共有する必要があるようです。

当所では、宿泊体験活動を通して不登校児童生徒の「居場所づくり」や「絆づくり」のための支援をしています。今年度は、1日入所のみですが、スタッフは、子どもたちが安心して過ごせるよう働きかけ、自分で選んで取り組んだり、協力し合い助け合ったりする活動等、子ども同士が主体的に絆をつくり出せる場と機会を設けています。これは学校における不登校の未然防止にも有効な手立てだと考えます。学校生活の中で、学級の状況等に応じて、短時間でも意識的に「居場所づくり」「絆づくり」を試みる事が大切です。

今回は、当所で行われた不登校担当教員研修会の中で、神戸親和女子大学 長谷川 重和教授が紹介された、学級や集団で、短時間で取り組めるエクササイズを紹介します。三密を避けるなど、コロナ対策をしながら行えるエクササイズを通じて、全ての子どもたちにとって、安心・安全な「居場所」がつけられ、子どもたち同士の心が
ふれあい、あたたかな「絆」が育まれることが期待できます。



学級でできるエクササイズ①

「スクイグル」(なぐり描き) ※会話をしないため、コロナ対策にもなります。

【ねらい】自由な共同作業を通して、違いを認め、わかり合える喜びを感じる。

【ルール】ペア(二人組)になり、自由に描かれた一本の線をスタートに、相手の想いをくみ取りながら、交互に一本ずつ線を描き加えて、絵を完成させる。

※課題が出てから活動中は会話をしない。(ノンバーバル)

【活動の流れ】①説明を聞いて活動について理解する。

②ペア(二人組)になり「スクイグル」に取り組む。

③シェアリング(共有)する。(筆談でも可能)

学級でできるエクササイズ②

「鉛筆対談」 ※筆記によるコミュニケーションのため、コロナ対策にもなります。

【ねらい】表情や間合いを読みながら、相手と気持ちが通じ合ったときのうれしさを体験する。

【ルール】会話をしないで、筆談により短い文章表現だけで、コミュニケーションをとる。

【活動の流れ】①説明を聞いて活動について理解する。

②先生と代表児童生徒とで鉛筆対談の進め方を実演する。

③2人組（ペア）になり、テーマを提示し、「鉛筆対談」をする。

④シェアリング（共有）する。

【テーマ例】

「好きな食べ物等、好きな〇〇」「楽しかった思い出」

「言ってもらったらうれしい言葉は」「朝起きてから、今までしたこと」等

不登校に関する研修会

当所では、不登校児童生徒への対応について理解を深めるために、不登校に関する研修会を4回実施し、4名の先生に講義をしていただきました。その一部を紹介します。

第1回

日時：7月27日（月） 姫路市市民会館

テーマ：「不登校の子どもに寄り添うための保護者の役割」

講師：春日井 敏之（立命館大学大学院教職研究科・教授）

マスクをつけていると表情が分からなくて、感情が伝わりにくく、コミュニケーションが取りにくい。休校期間中は「学校に通う意義」について、じっくりと考える機会となった。学校は、指導、支援、ケアする場である。指導と支援は、子どもの命と権利と利益を守ることが大前提である。支援とは、おすおすと背中に手を当て、気持ちをおしはかりながらそっと背中を押すこと。ケアとは、その人の存在や傷つきを一緒にいて丸ごと受け止めること。不登校の支援で大切なことは自己決定の尊重、その子どもが今一番大切にしていることを応援することである。

＜受講者からの感想＞

- ・「どうしたの？」という何気ない言葉がけが大切になると改めて感じた。
- ・「不登校という自己決定もある」という話を聞いて驚いた。つい指導者として「よい行動」「よい発言」を誘導する指導をしがちだが、ケアの視点を大切にしたいと感じた。
- ・支援とは「背中に手を当ててそっと押す」というイメージがしっくりきた。
- ・「支援」「ケア」の視点も取り入れた生徒理解をしていくことの重要性を痛感した。



第2回

日 時：8月11日（火） 県立総合体育館

テーマ：「これからの不登校支援のあり方

～全ての子どもを支えるソーシャルボンドについて考える～」

講 師：池島 徳大（元兵庫教育大学大学院・特任教授）



全ての問題行動や事象に対するキーワードは、「安心感の確立」「表現」「絆の形成」の3つである。児童生徒の心の扉をひらくマスターキーは「労い（ねぎらい）」と「労り（いたわり）」である。しんどい、つらい思いを表現できたらよいが、それを邪魔するのは心の扉である。心の扉を開けるマスターキーは「Be Respectful（尊重すること）」である。現在、子どもを集団につなぎとめるソーシャルボンドが減少しており、全ての子どもに、良質なコミュニケーションを育てるプログラムの実践を行うことが重要である。

<受講者からの感想>

- ・不登校への対応は不登校生徒へのアプローチを中心に行ってきたが、クラス・学校単位でのソーシャルボンドが非常に重要だと感じた。
- ・その子の持つ強い部分に目を向け、褒めることで良い方向に進んでいく事が分かった。
- ・問題行動を起こしてしまう子どもたちの対応について、気持ちを受け止めなければならないと思いながら、普段は、逆の対応をしてしまっていることに改めて気づいた。
- ・児童生徒に対して労う気持ちを忘れずに接することで不登校の予防に努めたい。



第3回

日 時：10月20日（火） 県立但馬やまびこの郷

テーマ：「不登校児童生徒およびその保護者との関わり方」

講 師：齊藤 誠一（神戸大学大学院・准教授）



子どもは学校に居場所をなくして休んでいるが、先生が家庭訪問に来るということは「学校が来る」という感覚を子どもや保護者はもつことがある。「〇〇になったら学校に来てね」等の約束は取り付けない。家庭訪問をする場合、締め切りがすぎたプリント類は配らない。気を配って対応する。子どもや保護者との相性が悪くても、それはダメなことではなくて、教師自身の学びや成長につながるので大切にすべきである。対応に関してうまくいかないことも受け止め、子どもや保護者、自分のせいにせず、次の作戦を考えることが重要である。

<受講者からの感想>

- ・教員の一言で生徒や保護者との距離が広がる事例もあり対応の難しさが実感できた。
- ・自分の行動がそれでいいのかと常に自問自答し続ける必要があると思った。
- ・保護者から相談されたとき私は答えを持っていないといけなかったと思っていたが、先生のお話の中で「一緒に困る、一緒になって考える」という言葉にはっとした。
- ・細々とつながることも大切なのだと知ることができた。

第4回

日 時：11月6日（金） 洲本市文化体育館

テーマ：「発達障害と不登校

～発達特性の理解と関わりについて～

講 師：石原 剛広（県立尼崎医療センター・小児科医長）



発達特性がある子は困っており、その生きづらさをどうするのが大事である。児童生徒に、「人と違うのは当たり前なので、『変』と思われてもいいんだよ」「傷つくことはたくさんあるかもしれないけれど、『人は人、自分は自分』を忘れずに」「だれでもみんな不得意があるので、できないことがあってもいいよ」と伝えたい。かかわりの3原則としては、小学校4年生くらいまでは【ほめる、あきらめる、ルールを決める】の3つ、思春期以降は、【みとめる、あきらめる、失敗させる】の3つを意識することが大切である。

<受講者からの感想>

- ・子どもの特性を理解しながらのかかわりについて、新たな視点を持つことができた。
- ・発達障害と発達特性の違いについて理解できた。
- ・「かかわりの3原則」を上手く活用しながら、学級の居場所づくりをしていきたい。
- ・かかわり3原則の「失敗させる」など、対応する我々の心の柔らかさが、大切だと知った。

不登校児童生徒に対する効果的な支援のために

各学校においては、不登校児童生徒への支援のために、校内に別室を用意したり、当所や市町立教育支援センター（適応指導教室）等を紹介したりする等、居場所の確保に努めていただいています。不登校児童生徒の中には、フリースクール等の民間施設で支援を受けている者もあり、教育機会確保法（平成29年2月施行）が求めている学校や市町組合教育委員会と民間施設との連携を図るため、令和2年3月、「不登校児童生徒を支援する民間施設に関するガイドライン」を兵庫県教育委員会が作成し、各校に配布しました。

本冊子を活用して、学校と民間施設との連携を図り、不登校児童生徒への支援が充実するようお願いします。

この冊子は、兵庫県教育委員会HPからもご覧いただけます。

[兵庫県教育委員会義務教育課ホームページ](https://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/minkanshisetsugaidorain.pdf)

URL：<https://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/minkanshisetsugaidorain.pdf>



兵庫県立但馬やまびこの郷機関紙「虹のかけ橋」Web版

令和3年2月

発行／兵庫県立但馬やまびこの郷

〒669-5135 兵庫県朝来市山東町森字向山 45-101

TEL 079-676-4724 FAX 079-676-4721

URL <http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>